

四天王寺紅生園

四天王寺紅生園は地域で暮らされているご利用者、ご家族がお困りの時に安心して介護サービスが利用できるように、関係機関と連携し、継続的に安全なサービス提供に努めました。感染症対応では、職員・ご利用者ひとりひとりの安全を第一に重点を置き、事業が安定して継続出来るよう各部署間での協働を実践しました。今後も、地域やご家族にも安心頂ける施設を目指していきます。

～事業活動報告～

(1) 利用者サービス

前年度に続き感染症予防のため自由な面会が出来ない中、ビデオ面会に加え、ガラス越し面会・アクリル板越し面会と感染状況に応じた面会方法を用いることで継続してご家族との繋がりを維持しました。面会以外には、広報誌や行事後の写真提供や個別の連絡の機会を増やしました。個別支援では、感染症に留意し、ご家族との交流できる場を企画しました。

(2) 人材の定着

感染症対策の実施を通して、業務の優先順位や必要性を見直し、一部簡素化を図ることで、平常時でも多世代・グローバルかつハンディのある方でも働きやすい職場環境の整備に努めました。前年度同様、時間外勤務の削減や有給休暇の取得向上に取り組み、離職率減・定着率の維持に繋がり、安定した利用者サービスに取り組むことが出来ました。今後、各職員の役割を明確化していくことで、より愛着を感じる職場作りを目指していきます。

(3) 事業運営

今年度も感染症の拡大で利用を控える傾向もあり、感染症対策をしつつ、事業運営を継続させることが非常に厳しい1年でした。引き続き、中長期計画が着実に執行できるように予算執行管理を行い、財務体質の強化に取り組みます。計画通り、施設積立金・本部繰入金の予算執行をしました。

～改善活動～

(1) 介護職員・補助職員と業務分担を整理し、見守り体制や連携強化を図ることで、前年度と比較し、事故件数の減少を図ることが出来ました。下半期LIFEの導入を通してご利用者個々のアセスメント強化からADL維持に努めました。引き続きICTの導入も含め、職員間で情報共有出来るツールを構築しながら職員自身の視野・気づきを養うことで、事故件数の減少だけでなくご利用者のOQLの向上にも繋げていきます。

(2) 個別支援

感染症によりご利用者の外出機会が少なくなっている状況の中で、施設内でご家族と関わりを持つ機会や、年間通して看取りを継続して実践することが出来ました。まだまだご家族の不安も大きく、平常の面会や外出のご案内は出来ない状況ですが、専門的知見も取り入れながら安全にご家族・地域・ボランティアと交流出来る機会を設けていきます。